

### 工事不要で簡単設置

杉田エース 宅配ボックス「オイテック」

建築金物の総合商社である杉田エース(杉田裕介社長、東京都豊田区)は昨年12月15日から、佐藤ナオキ氏率いるデザインオフィスron do(ネド)が手がけた宅配ボックス「oitec(オイテック)」を発売している。

「オイテック」は持ち運びが便利で樹脂製のハードケースの中に、取り出し可能なナイロンバッグを収納した「バッグインケース」型の宅配ボックス。防犯・盗難対策として

バッグのクリアポケットには、バッグの施錠に必要な南京錠や印鑑、配達伝票などが収納でき、連絡事項が記載できるホワイトボードと宅配業者に向けた使用説明ボードも取り付けが可能。戸建てやオフィスなどでの利用者をターゲットに、同社の直営店舗「クマエスタショップ」や楽天とヤフーの「ク

マ」で販売しているほか、大型量販店などでの販売も進めている。価格は1万7000円(税別)。ケースサイズはW506mm×D169mm×H341mmで重量は2100g。カラーバリエーションはシルバーブラックホワイトブルーの4色。(三村秀寿)

### 魅力ある職場づくり

センコー 福田泰久社長

センコーグループは4日、本社をはじめ各地で新年初式を開催。本社では福



福田社長 機械化をはじめ、次世代技術を駆使した生産体制を構築させ、働きやすく、魅力ある職場づくりに努めていく」と話し

た。「収益力の強化」では、物流部門は顧客と料金改定や取引条件の見直しをさらに進め、商部門は仕入れ価格のアップを確実に販売価格に反映させるなど、取

り組みを強化していく考え。「事業拡大」では、国内外でも温床を中心に、市場動向や顧客ニーズを汲み取った高機能な物流センターを増強していく。さらに海外事業はグループ

の成長エンジンの一つと考え、未進出地域での事業化を進めていく予定。また商部門は「新商品の開発やグループ各社の販路を生かした顧客開拓を目指す」ともいっ

### 「目」を「アップ」の「アップ」に

### 32 私的整理 4

はインバンの紹介などで相談を持ちかけ、協議会側がその会社の決算書などの資料

公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門家による個別支援チームが編成され、具体的に事業の再生計画を練っていきます。その中で収益計画の見直しなどの再生の

特殊車両の通行許可申請に頭を悩ませる運送事業者は多い。申請から許可が下りるまで時間がかかることが多く、事業者自ら申請手続きを行っていたら、本業の業務に支障をきたす恐れも出てくる。「全国各地から特車申請の相談が来ている」という佐久間行政書士事務所(特車申請センター、埼玉県さいたま市)の佐久間翔一行政書士は「月額定額料金をいただき、その期間は何度申請いただいても料金は同じというプランを新設した」という。「もちろん実際の業務を見せさせていただき、最適なプランをご提案させていただく。定額の方がメリットのある場合もあるし、そうでない場合もある」と話す佐久間氏。実際に佐久間氏の「定額プラン」を活用している鹿久保運輸(茨城県猿島郡境町)の鹿久保運輸社長に話を聞いた。

### 佐久間行政書士事務所が新設

# 特車申請に定額プラン

## 鹿久保運輸が活用、固定費で経営を楽に



鹿久保社長(左)と佐久間行政書士

「佐久間さんとお会いするまで、特車申請は、すべて私がやっていた。朝から夜までかなりきりぎりす。思えば、会社のことを見られていなかった」と振り返る。同社は車両86台を保有しており、半数がトレーラー。1か月に平均20件の申請をするという。1申請で6車

種分。すべて新規の申請だという。「当社は関東方面の荷物がほとんど。工場から各現場に輸送しているが、現場は長くても3か月で終わる。申請から許可までの期間が、もっと短くなればいいのだが」と吐露する鹿久保社長。佐久間氏は「ルールが現実と追いついていない状況。コンプ

ライアンスを順守する会社が増えてくるにもかかわらず、無許可で仕事をする会社が得をするのはおかしい」と指摘。「もっと正しい運送会社の役に立つように」と考えたのが「毎月の料金が定額の特車申請プラン」だ。「毎月の料金が定まらない

と、運送事業者も経営がしにくい。固定費として特車申請代を見極めることができれば便利だと考えた」と説明する。

鹿久保社長も「このプランはかなり便利で、月で決まっているので、心配することなく特車申請の依頼ができる」という。佐久間氏は「特車申請は運送会社がコンプライアンスを守るために実施しているという防衛的なもの。その部分で運送会社に貢献したいという気持ちが強かった」と説明する。

鹿久保社長は「特車申請を自社でやるよりも、専門の行政書士にお任せした方が、荷主も安心する。また、オンライン申請ができるようになって、自社でやっている会社も多くなっている」と指摘。佐久間氏は

「オンライン化したことで、私も全国対応ができるようになった。もちろん、実際に顔を見ることが大切だと思っている。まずは会社を訪問して、じっくりとお話をお聞かせいただく。その上で最適なプランを提案している」という。

鹿久保社長からも「佐久間さんのように熱心な行政書士を見ることがない。申請から許可までの期間を短くするために、いろいろと提案してくれるし、あらゆるパターンを考えていただき、大変助かっている」と言われるほど信頼関係を構築している佐久間氏。「当事務所に依頼される方は正直な方で、業界の地位向上をめざしている方ばかり。いろいろな場面でもっと貢献させていただきたい」と話している。(小西京弥)

エコモ財団 12月のグリーン経営認証  
トラック8事業所、累計5465事業所  
グリーン経営認証登録事業者  
平成29年12月分 新規登録一覽  
会社名 事業所名 所在地  
交通エコモ財団  
グリーン経営認証  
発表。トラック運  
数は4件・8事業  
社・5465事業  
所の新規登録はな  
く602事業所。な  
事業所のトラック  
42台となった。  
また、初度登録  
認証登録された事  
業所登録事業者兼  
た。